

17 亀様通り (かめさまどおり)



松島町

昭和20年頃、近くの海岸で不幸にも命を絶たれた正覚坊(アオウミガメ)の霊を祀るため建てられたお地藏様で、霊験あらたかな評判で遠近より信者が多い。通称「亀様」という。この亀様の東側を、松島町外野より海岸に通じる道路をいう。



18 新源太夫堀跡(東端) (しんげだゆうぼりあと)



松島町

この位置にある堀は新源太夫堀であり、源太夫堀が使えなくなったので、文政年間の藩主水野忠邦の命で新たに建設した運河で、長さ1400間(約2400m)幅員10間(18m)であった。この運河を掘って積み上げた堤の跡が残っている。



19 鶴島 (つるしま)



松島町

鶴島は、松島町の北部の集落で鶴島と呼ばれる。五島村の島の一つで、浜松市に合併時に松島町に併合された。五島地区の地図で東北に鶴首の様に細く伸びた地域である。



20 三軒屋 (さんげんや)



松島町

松島町の南部の集落で、初めは3軒の家から始まったが、その後南方に発展して住居が増え、松島町南の中心をなしている。



21 遠州浜中央通り (えんしゅうはまちゅうおうどおり)



遠州浜

遠州浜一丁目源太夫橋より遠州浜四丁目までの道路を遠州浜中央通りという。浜団地内の中央を東西に通じる幹線道路であるためこのように命名した。



22 遠州浜中央通り (遠州浜小学校跡) (えんしゅうはまちゅうおうどおり)



遠州浜

遠州浜一丁目源太夫橋より遠州浜四丁目までの道路を遠州浜中央通りという。浜団地内の中央を東西に通じる幹線道路であるためこのように命名した。



23 遠州浜中央通り (えんしゅうはまちゅうおうどおり)



遠州浜

遠州浜一丁目源太夫橋より遠州浜四丁目までの道路を遠州浜中央通りという。浜団地内の中央を東西に通じる幹線道路であるためこのように命名した。



29 ひがし通り (ひがしどおり)



遠州浜

遠州浜三丁目と四丁目の境を南北に通じる道路を、ひがし通りという。この道路は浜団地内の東側に位置するため、このように命名した。



24 松風通り (まつかぜどおり)



遠州浜

遠州浜一丁目より遠州浜四丁目まで、浜団地の南側を東西に通じる道路を松風通りという。道路の南側の松林(防風林)が、さわやかな風を呼び健康道路である。



25 松風通り (まつかぜどおり)



遠州浜

遠州浜一丁目より遠州浜四丁目まで、浜団地の南側を東西に通じる道路を松風通りという。道路の南側の松林(防風林)が、さわやかな風を呼び健康道路である。



26 松風通り (まつかぜどおり)



遠州浜

遠州浜一丁目より遠州浜四丁目まで、浜団地の南側を東西に通じる道路を松風通りという。道路の南側の松林(防風林)が、さわやかな風を呼び健康道路である。



27 中央公園通り (ちゅうおうこうえんどおり)



遠州浜

遠州浜二丁目と三丁目の境を南北に通じる道路を、中央公園通りという。道路の西側に遠州浜第2公園があり、この公園は浜団地内のほぼ中央に位置し、夏まつり広場にもなっている。



28 中央公園通り (中央商店街跡) (ちゅうおうこうえんどおり)



遠州浜

遠州浜二丁目と三丁目の境を南北に通じる道路を、中央公園通りという。道路の西側に遠州浜第2公園があり、この公園は浜団地内のほぼ中央に位置し、夏まつり広場にもなっている。



30 西商店街通り (にししょうてんがいどおり)



遠州浜

遠州浜一丁目内の南北に通じる道路を、西商店街通りという。この通りは浜団地内の西側に位置し、商店が立ち並んでいるため、このように命名した。



31 浜風通り (はまかぜどおり)



遠州浜

遠州浜一丁目と二丁目の境を南北に通じる道路を、浜風通りという。この通りは、しん道通りの延長で南の汐見峠からの潮風が通り抜ける位置にあるため、このように命名した。



32 汐見峠(潮見峠) (しおみとうげ)



遠州浜

松風通りと浜風通りとの交差点の南側に汐見峠(潮見峠)がある。浜団地内から海に出るまでの間、小高い松林がありこの様に呼ばれた。西島のしん道通りから続く浜への出口で、前浜での漁業が盛んな頃は、西島の漁業組・一心丸のイロ見峠やツバコ掛けの松があった。



33 五島灯台跡 (ごとうとうだいあと)



松島町

昭和38年に設置された総タイル張りの高さ13メートルの灯台で、五島海岸のシンボルで、小学校の遠足の目標にもなっていた。海岸の変化で波打ち際が迫り、平成14年に竜洋や舞阪に新しい灯台が出来て廃止され、取り壊された。



34 ジェームズペイトン号難破跡 (じえむずべいとうんごうなんぱあと)



福島町

明治8年に英国の貨物船ジェームズペイトン号が嵐に遭い、この辺りで座礁し救助を求めた。福島町の住民が総出で乗組員16人を救助し、村内に逗留させ世話した。船は壊れて、波や砂に埋もれてしまった。